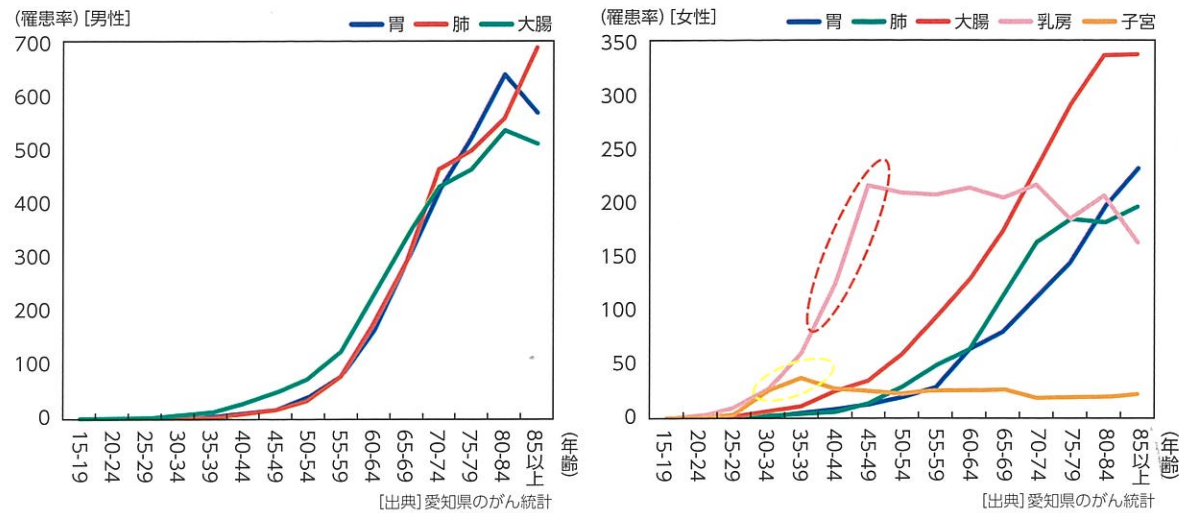
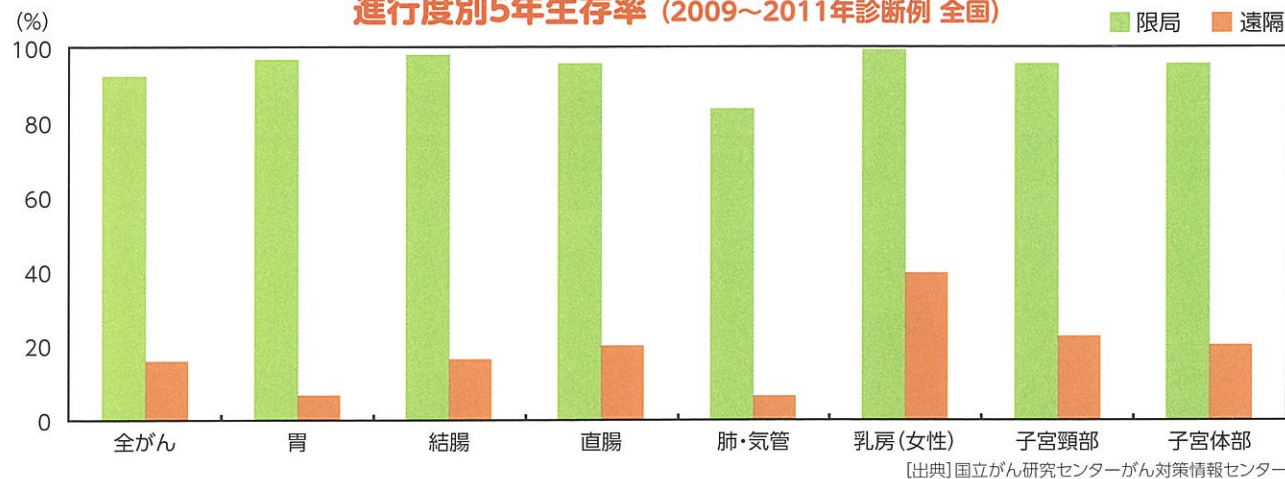


がんの罹患率は40歳代くらいから徐々に増加していき、高齢になるほど高くなっていきますが、女性の乳がん、子宮頸がんは若い世代から罹患率が高くなる傾向があります。

年齢階級別・部位別罹患率 (人口10万対 2017年 愛知県)



進行度別5年生存率 (2009~2011年診断例 全国)



がん検診は、症状のない早期の段階でがんを発見することを目的としているため、がん検診を受診することが、がんによる死亡を減らすことに繋がります。**がんは早期に発見し治療すれば、9割以上の方が治ります。**早期発見のためには、定期的ながん検診を受診していくことが大切です。

がんの進行度



限局 がんが発生した臓器以外には広がっていない段階
遠隔 がんが発生した臓器から遠く離れた臓器まで広がっている段階



がんは進行するほど、生存率が低いです…。

女性は知って欲しい豆知識

ブレスト・アウェアネスについて

ブレスト・アウェアネスとは、乳がんに関する正しい知識及び乳房を意識する生活習慣のことです。自分の乳房の変化に気をつける習慣を身につけ、しこりなど気になる症状があればすぐに受診しましょう。

胃がん検診 (胃部X線検査または胃内視鏡検査)

胃部X線検査

発泡剤(胃を膨らませる薬)とバリウム(造影剤)を飲み、検査を受けます。身体を仰向けや俯せに動かしながら撮影し、胃の中の粘膜を観察します。

胃内視鏡検査

口または鼻から内視鏡を挿入し、胃の内部を観察します。検診時に疑わしい部位が見つければ、そのまま生検(組織の一部を採取する)を行う場合もあります。

要精密検査の場合は、再度胃内視鏡検査を行います。



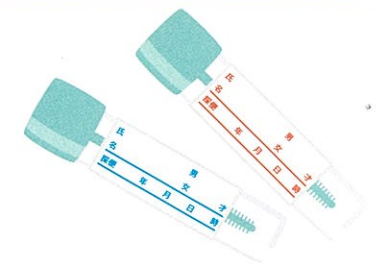
大腸がん検診

便潜血検査

ご家庭で2日分の便を採取し、便の中に血液が混じっていないかを調べます。

要精密検査の場合は、大腸内視鏡検査を行います。

大腸内視鏡検査は下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を観察し、がんやポリープなどがいないか調べます。



肺がん検診 (胸部X線検査と痰の検査)

胸部X線検査

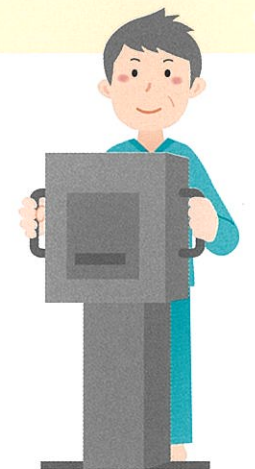
大きく息を吸い込んでしばらく止め、胸部のX線撮影を行います。

痰の検査

50歳以上、喫煙指数(1日本数×年数)600以上の方が対象です。痰を専用の容器に入れて提出します。痰に含まれる細胞成分を顕微鏡で観察してがん細胞の有無を調べます。

要精密検査の場合は、胸部CTや気管支鏡検査を行います。

胸部CT検査はX線を使って病変が疑われた部位を撮影し、詳しく調べます。気管支鏡検査は気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入し、病変が疑われた部分を直接観察します。



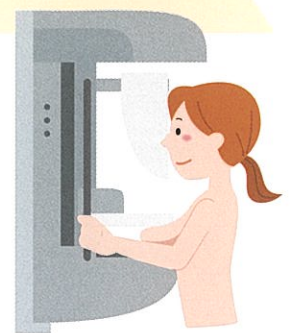
乳がん検診

マンモグラフィ(乳房X線検査)

乳房を板で挟んで薄く伸ばした状態で撮影します。乳房が圧迫されるため、多少の痛みを伴いますが乳房内部の様子をより鮮明に観察することができます。

要精密検査の場合は、マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診や組織診を行います。

超音波検査は超音波で、疑わしい部分を詳しく観察します。細胞診及び組織診は疑わしい部分に針を刺して、細胞や組織を採取してがんかどうかを診断します。



子宮頸がん検診

子宮頸部の細胞診・視診・内診(触診)

子宮頸部(子宮の入り口)を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞をとり、異常な細胞がないかを顕微鏡で調べます。

要精密検査の場合は、コルポスコプ検査を行います。

コルポスコプ検査はコルポスコプ(陰拡大鏡)を使って、子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つければ、組織を採取してがんかどうかを調べます。

